

専門学校読売自動車大学校

学校関係者評価 報告

「令和2年度」

令和3年9月1日

学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価

学校関係者評価は、卒業生・保護者・地域住民・企業役職員等の学校関係者を選任し、学校が実施した令和元年度における自己点検評価の結果に関する評価を行い、教育活動と学校運営の改善に向けた助言を行う。

なお、評価の観点は次の項目による。

- ・自己評価の内容が適切かどうか
- ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策等が適切であるかどうか
- ・学校の重点目標や具体的方策等が適切かどうか
- ・学校運営の改善に向けた実際の取組みが適切かどうか

2. 学校関係者評価委員会の実施

令和2年度の「自己評価報告書」を、学校関係者委員に事前に送付した上で委員会を開催し、ご意見・ご提案を頂いた。また、委員の皆様には基準項目毎に4段階で評価頂き、その結果も含め報告書としてまとめた。尚、第1回委員会においては昨年度の教育活動や学校運営についての評価と今後の課題の提起を行い、次回の第2回委員会では令和3年度の間評評価と次年度への取り組み課題等の討議を行う。

<令和3年度 第1回> 開催日時：令和3年 7月15日（木）17：00～18：00

場 所：510教室

<令和3年度 第2回> 開催日時：令和3年 11月24日（水）17：00～18：00

場 所：510教室

3. 学校関係者評価委員会の出席者

① 学校関係者評価委員

- ・齋藤 義明：地域住民 亀戸二丁目町会副会長
- ・今井 一之：企業等 (株)関東マツダ
- ・矢田 泰久：卒業生 読売自動車大学校同窓会 会長

(敬称略・順不同)

② 学校側参加者

- ・松井 敏宏：理事長
- ・渡辺 宜男：校長
- ・吉山 隆晴：法人本部長
- ・岡島 毅：事務局長
- ・北村 眞一：校長補佐兼1級整備学科 学科長
- ・北島 鎮夫：自動車整備学科 学科長
- ・鈴木雄一郎：教務委員長

4. 学校関係者評価委員の意見・提案と評価平均点 (令和2年度 学校関係者評価)

基準1 教育理念 3.7 (前回 4.0←3.8←3.6)

- ・整備事業の変化に対応した整備士教育を取り入れることが求められるなか、新機構・新技術の急速な進歩による質の変化が起こっている。1級課程のみでなく、自動車整備学科の学生に対しても、社会人として通用するコミュニケーション能力を養成する取り組みは大変良い。
- ・良い教育理念だと思います。その教育理念を確実に実行する教育を目指してほしい。
- ・教育理念の先には学生の5年後、10年後が考えられている事が理想である。企業向けの即戦力のその先を考えることになるので、非常に困難であるが学生の未来を考えた場合に中長期的なプランや考え方を見せる、体験させる等が必要だと思います。

基準2 学校運営 4.0 (前回 4.0←4.0←3.6)

- ・我が国における基幹産業の人材確保のためにも、日本人・留学生を問わず、就職率・国家資格取得率の高さを多面的にアピールし学生の確保をお願いしたい。尚、就業可能な学生確保のためにも出来る範囲で協力したい。
- ・日本は自動車生産が重要産業の国なので、製作やメンテナンスに関わる人材は大切です。頑張って人材確保に努め、優秀な人材を送り出してほしい。
- ・経営として学生数の確保は課題だと思います。入学から就職までの一貫型（企業派遣学生型？）のより小さなパック（金額や人数）を提案できるようにする。（事業後継者や弱小法人等でも派遣ができるイメージ）

基準3 教育活動 4.0 (前回 3.7←3.5←4.0)

- ・1級担当教員が全員1級取得者であることは、高水準な教育レベル維持には必須であるので、最適な指導者維持のために今後ともご努力をお願いしたい。
- ・例年実施させて頂いております企業連携の研修につきましても、先生方や学生に有意義なことが出来るよう意見交換を行いながら進めたい。
- ・新しい技術仕様の車が次々と生まれています。それに対応する先生方も大変だと思います。メーカーとも協力関係を築き新技術に対する専任講師の派遣を依頼することも考えていいのではないかと思います。
- ・1級課程の教員が1級資格を持つことが理想であるが、必須ではないと思う。教えるプロであればOK。コロナが終息し、対面授業ができるようになればキャリア教育面なのでOBとして協力できるなら参加したい。

基準4 学修成果 3.3 (前回 3.3←3.5←3.6)

- ・国家資格取得に対しての結果は素晴らしい状況で今後も継続できるよう努力をお願いしたい。他の資格取得についても素晴らしい結果ですが、より高いレベルの合格率になりますようご尽力願う。運転免許取得については、コロナの影響を考慮した対応を、そして日本語能力については実用レベルでの判断も必要かと思います。

- ・特別授業等でフォローしている姿勢は良いと思います。関連資格試験は車の整備とは全然違う事も含まれているので、全ての資格取らせるには大変だと思うが、それが将来本人の為には重要なことだと理解させ、成果を上げてほしい。
- ・レポートにあった退学率の上昇傾向は問題と考える（但し、コロナ禍や留学生等の問題は理解可能です）

基準 5 学生支援 3.3 (前回 3.3←3.5←3.6)

- ・課外活動のアピールについてはコロナ終息後に積極的に活動して下さい。具体的な活動先として、小中学生に整備の楽しさやりがいをアピールする体験授業は将来にむけて大変有効な活動と思える。
- ・就職するまで面倒を見ている点は良いと思います。就職後の支援のことも課題に挙がっていますが、そこまでやる学校は実際どの位あるのだろうか。
- ・コロナの影響により課外活動や外部との情報交換など多くの制限があると思います。

基準 6 教育環境 4.0 (前回 4.0←3.8←4.0)

- ・教育環境ではコロナの影響による、オンライン授業の設備準備や先生方の授業の準備、校内の感染予防等本来の教育機材以外の段取りにご苦労があらうと思いますが優先順位順にご対応下さい。
- ・改善項目は多くあると思いますが、毎年環境整備を行っている点は良いと思います。
- ・オンライン対応などの状況を鑑みた優先順位付けを高く評価致しました。

基準 7 学生の受け入れ募集 3.7 (前回 2.7←3.5←3.3)

- ・学生募集については、学生から選ばれる活動を模索しながら、より魅力ある OC に出来ますようご努力下さい。弊社も出来る範囲で協力をさせて頂きたい。
- ・高卒の多くが大学に行き、サラリーマンになる時代です。職人になりたいと思う人が少なくなっている現状で、魅力を発信して色々な募集の取り組みを続けてほしい。
- ・オープンキャンパスの開催状況など苦労されているのを拝見しました。紹介制度の有効性など別途教えてほしい。サポートできる可能性を探りたいと思います。

基準 8 財務 3.7 (前回 4.0←4.0←3.6)

- ・健全経営と思います。
- ・ディーラー研修等の企業への貸し教室の案は有効性があると思います。コロナ終息後のディーラーミーティング等で利用できる可能性があります。(経験上、JLR は TKP などを利用している。TKP より安価であれば、利用価値が企業側にあると考える) 安価かつ学校見学など利用者へのプラスアルファがあれば、利用価値は十分にあると思います。

基準 9 法令等の遵守 3.7 (前回 4.0←4.0←3.6)

- ・問題ありません。
- ・取りまとめ結果とは言え、レポートからはコンプライアンスに関する視野範囲が狭いと感じる点があった。指導を行う学生、特に未成年に関する配慮が必要とも感じました。

基準 10 社会貢献・地域貢献 4.0 (前回 3.7←3.3←3.3)

- ・課外活動についてはコロナ終息後に積極的に活動下さい。
- ・授業が目白押しの中、様々な活動をしているのは評価できると思います。
- ・読売新聞グループのネットワークを最大限に利用することを検討いただくしかないと思います。亀戸や江東地域での活動では活動によるリターンが少ないと考えます。レポート内の活動には賛同致します。

基準 11 国際交流 4.0 (前回 4.0←4.0←3.6)

- ・留学生の対応については、長い経験のある御校ですので各種ノウハウがあるとおもいますが、より実践的な日本語のコミュニケーションを身に着け社会に送りだしてほしい。
- ・ボランティア活動や課外活動の中で色々な地域の方々がコミュニケーションを取れば良いと思います。
- ・ラリー大会などで留学生のご活躍などは拝見しております。優秀な方もいらっしゃると思いますので、留学生の成功事例の紹介が要望されます。卒業生紹介で留学生の紹介や技能コンテストなどでの入賞などの紹介もよいと思います。

その他の意見等

- ・人間力・基礎力・資格取得力に重点を置き、時代に沿った、業界に順応し大いに活躍出来る人物の育成を、動向に敏感に察知し遅れを取らない教育活動をお願いしたい。
- ・まずはコロナ終息だと思いますが、それ以降はOBとして色々なサポートを考えております。現職のFerrari Japanも含めて、前職のJLRもネットワークを最大限に活用してサポートしたい。
- ・産業研究などの個人の経験を話すのはもちろんのこと、同窓会会長としてコーンズなどの採用担当とのコラボなど検討したい。

まとめ

委員の方々のご意見・ご提案を参考として、今年度及び来年度に向けた学校運営の検討を行う。

以上